

# TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する

## 歩行者がいる横断歩道で自転車利用者は降車して押し歩きしているか？

### DATA 基礎情報

横断歩道は歩行者が横断するための場所

自転車は横断歩道を通行することができる。その際の心得が「交通の方法に関する教則」(国家公安委員会が歩行者と運転者の交通マナーをまとめた手引き)には以下のように示されている。  
「自転車は道路を横断しようとする時、近く

に自転車横断帯があれば、その自転車横断帯を通行しなければなりません。また、横断歩道は歩行者の横断のための場所ですので、横断中の歩行者がいらないなど歩行者の通行を妨げるおそれのない場合を除き、特定小型原動機付自転車や自転車に乗ったまま通行してはいけません」。  
今回は、歩行者がいる横断歩道を通行する自転車利用者がどのような行動をとっているか、東京都内の2ヵ所の横断歩道で観察した。

### WATCHING 観察

降車して押し歩きする自転車利用者はわずか

観察場所Aは東急電鉄「三軒茶屋駅」付近の横断歩道。ここには自転車横断帯が設けられている。観察した朝の時間帯は歩行者用信号機が青の間、横断歩道には常に歩行者がいる状況だった。1時間に横断歩道・自転車横断帯を渡った自転車利用者は145人。このうち自転車横断帯を利用(横断開始から終了まで)したのは33人、横断歩道を通行したのは112人。横断歩道の112人はほとんどが自転車に乗ったまま渡っていた。一方、降車して自転車を押して歩いていたのは2人であった。観察場所Bは東京メトロ「門前仲町駅」付近の横断歩道。自転車横断帯はなく、車道に青い

自転車ナビラインが設けられていた。1時間に横断歩道・ナビラインを渡った自転車利用者は119人。このうちナビラインに沿って通行(横断開始から終了まで)したのは5人、横断歩道を通行したのは114人。横断歩道では、ほとんどの人が観察場所A同様、自転車に乗ったまま、降車して自転車を押して歩いていたのは3人であった。観察場所A、Bともに、横断歩道にいる歩行者と歩行者の間をぬって走る自転車が散見されるなど、歩行者の通行を妨げているように思われた。  
Aは通勤時間帯だったことから、横断歩道上で徐行する自転車はほとんどいなかった。また、自転車通行帯に歩行者がいて、自転車が横断歩道を通らざるを得ない状況もあった。Bでは横断歩道の外側に進路を変更したり、徐行して歩行者の後方を追従する自転車が見られた。



歩行者が少ない状況でも自転車を押して歩いていた女性。自転車の後部に幼児を同乗させていた(観察場所A)

### ADVICE アドバイス

横断歩道では歩行者に配慮しなければならない

歩行者のいる横断歩道で、自転車利用者が押し歩きをしている姿はほとんど見られなかった。さらに、歩行者がいるにもかかわらず、加速して横断歩道に進入していく自転車も見られた。横断歩道は歩行者のためのものであることを、自転車利用者は再認識する必要がある。やむを得ず横断歩道を利用する際は、歩行者の間をすり抜けるように走る行為は控え、降車して自転車を押して歩くことが望ましい。

自転車横断帯がある場所では「自転車は、道路を横断しようとする時は、自転車横断帯がある場所の付近においては、その自転車横断帯によって道路を横断しなければならない」と、道路交通法に定められている。自転車横断帯が設けられていない場合は、横断歩道を利用するケースもあるだろう。その時に大切なのは、自転車利用者が歩行者の存在を意識し、脅威を与えないように配慮することだ。これは自転車通行可の歩道においても同じである。一方、歩行者は横断歩道を渡る時、変則的な動きをする自転車に注意が必要だ。スマートフォンなどを注視せず、前を向いて周囲の状況を確認してほしい。

### 観察結果

#### 観察場所 A

東京都世田谷区  
東急電鉄「三軒茶屋駅」付近  
観察日／5月21日(水)  
観察時間／7:45～8:45  
天候／曇り



横断歩道の横には自転車横断帯が設けられている

#### ●自転車利用者の横断歩道での行動(人)

	幼児	小学生	中学生	成人	高齢者	合計
そのまま乗用	0	3	10	94	3	110(98.2%)
降車して押し歩き	0	0	0	1	1	2(1.8%)
合計	0	3	10	95	4	112
自転車横断帯を通行	0	0	2	30	1	33

\*幼児(6歳未満)、小学生(6～13歳未満)、中学生(13～18歳)、成人(19～64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による。



自転車横断帯より横断歩道を利用する自転車のほうが多かった



歩行者の直前を横切る高校生と思われる自転車利用者



スマートフォンを注視しながら自転車横断帯を歩く歩行者



降車して自転車を押して歩く女性

#### 観察場所 B

東京都江東区  
東京メトロ「門前仲町駅」付近  
観察日／5月22日(木)  
観察時間／17:00～18:00  
天候／曇り



自転車横断帯は設けられていない

#### ●自転車利用者の横断歩道での行動(人)

	幼児	小学生	中学生	成人	高齢者	合計
そのまま乗用	0	4	3	89	15	111(97.4%)
降車して押し歩き	0	0	0	3	0	3(2.6%)
合計	0	4	3	92	15	114
ナビラインに沿って通行	0	0	0	5	0	5



歩行者を避けながら走る自転車が多かった



歩行者を追い抜かず、後ろを低速で追従する自転車



観察場所A同様、降車して押し歩きする自転車利用者はわずかだった



車道には自転車が通行すべき部分と進行すべき方向を示す「自動車ナビライン」が設けられていた